『願い』一歩前へ

長浜市立西中学校　学校だより　第５号
令和５年７月３日　　発行文責；小川淳三
生活スローガン「あすこそは」
あいさつ・スマイル・こしぼね・そうじ・はきもの

はずませて はずませて夏 若者が
汗という語を 美しくする

７月に入り、夏本番。気温も一気にヒートアップしてきました。２０日の終業式まで、登校日は１３日（今日を含めて）となりました。２１日からは「各部活動の大会」等が待ち受けています。期末テストも終わり、各部はそれぞれの「目標達成」のため、そして夢の実現に向かって頑張っています。

「**流汗悟道**（りゅうかんごどう）」という言葉があります。汗を流して実際に体験することで、人間として大事なことがわかるということを意味します。私たちは全力を出し切ることで新しいエネルギーがわいてきます。暑いときこそ体を動かし、たっぷり汗をかきましょう。

見出しの短歌は、俵万智（たわらまち）さんが詠（よ）まれたものです。一所懸命に取り組む姿や流す汗は美しく、笑顔も光り輝きます。流れる汗から大切なことをつかんでほしいと思います。また脳みそからも汗をかくほど、頭を使って「考える夏」にしてほしいと願います。もちろん水分補給を忘れずに！（大会についての詳細は各部よりお聞きください）

先月９日に開催した「伝統文化学習発表会」は、２年生に加え保護者にも参観いただきました。３年生の「絆」を感じる晴れ舞台でした。感想の一部を紹介します。

◆トップバッターで、とても緊張しました。演奏はミスせずに弾けました。お父さんも「みんなと息がそろっていて、かっこよかったよ！」と言ってくれて、みんなと一緒にできて本当によかったなと思いました。ほかの講座の発表も、たくさんの魅力があっていい発表会になりました。（箏講座）

◆本番直前すごく緊張していて、本番中トラブルで扇子が閉じなくなって、頭が真っ白になって冷や汗をかいて、振りを間違えてしまったことは、たぶんこの先も忘れない失敗だったと思います。でも、楽しんで舞えたし、指の先まで神経をめぐらせてできたことは、とても良かったです。どの講座の演技もすばらしくて、やりたいなあと思うものが、たくさんできました。（剣舞・歌謡舞講座）

晴れ舞台

「光る 光る すべては 光る　光らないものは ひとつとしてない
みずから 光らないものは 他から 光を受けて 光る」

という坂村真民（しんみん）さんの詩があります。自ら光る太陽。また、太陽の光を受けて光っている月も、なんと美しいことでしょう。月はみずから光っているのではありません。夜空の星だけでなく、自分の周りにいる人の輝きを見つけ出すことができる人は、その人に劣（おと）らず自分もまた輝いているに違いありません。他の人のよいところを見つけ出すことができる人は幸せです。人の輝いているところを見つけ、そこから何かを学び取ることができたら、どんなに素晴らしいことでしょう。

発表会は、それぞれの輝きに満ちていました。７日は「七夕」です。

どの子も子どもは星

東井義雄

どの子も子どもは星
みんなそれぞれが
それぞれの光をいだいて
まばたきしている
ぼくの光を見てくださいと
まばたきしている
わたしの光も見てくださいと
まばたきしている
光を見てやろう
まばたきに応えてやろう
光を見てもらえないと
子どもの星は光を消す
まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうと
しはじめている星はないか
光を消してしまおうと
しはじめている星はないか
光を見てやろう
まばたきに応えてやろう
そして
天いっぱいに子どもの星を
かがやかせよう

２年生は５日から職場体験に向かいます。責任を持って仕事をすることで、人は成長します。

学力を高めるための三つの効果

私の経験では、家で何か一つの仕事を責任持ってやっている子は、学力が伸びていきます。今はそれほどでなくても、だんだんと学力がついてきます。その理由は何でしょう？

まず、一つの仕事をきちんとできるようになると自分に自信がつく、ということがあります。例えば、小学一年生で教えた子で、お風呂洗いをとてもがんばってプロになった子がいました。きっかけは、生活科の「家の仕事に挑戦」という単元でした。生まれて初めてお風呂を洗ったときに、家の人みんなにほめられ、とてもうれしかったようです。その後も、おばあちゃんが「〇〇の洗ったお風呂は気持ちがいいね」とほめ続けてくれました。これで、この子はとても自信がつきました。寒い冬もがんばりきりました。

勉強もばりばりがんばり、宿題以外にも自主勉強をやってくるようになりました。自分にはお風呂洗いができる、それが家族みんなの役に立っている、そういう気持ちがその子に自信とエネルギーを与えていたのです。

次に、仕事をやると子どもの集中力と注意力が増すということがあります。何か一つの仕事をやるということは、いつもの遊びとは違う緊張感を子どもにもたらします。それは、給食の配膳の時に食缶からお玉を使って食器におかずを盛っているときの子どもの様子を見ればわかります。こぼしてはいけないので、ものすごく真剣です。

こういう様子は、遊びの中では決して見られない種類のものです。お風呂洗いでも、食器洗いでも、洗濯物をたたむことでも、玄関の掃除でも、子どもには遊びとは違った緊張感と集中力と注意力とが求められます。そのような経験を毎日している子がそうでない子と違ってくるのは、当然といえば当然です。そこで身につけた集中力と注意力が、学校も含めた普段の生活に自然に発揮されるのです。

もちろん、授業中や宿題やテストをやるときにもです。友達や先生の話をしっかり聞くこともできますし、教科書やテストの問題もしっかり読み取ることができるのです。当然、テストのうっかりミスも少なくなります。一見無関係のようですが、子どもたちを見ていると、相関関係があることに気づかされずにはいられません。

次に、仕事を毎日責任持ってやり続けることで自己コントロールの力がつきます。仕事を任されれば、嫌なときや気分が乗らないときでも、なんとかがんばらなければなりません。そこで、自分の感情や気分をコントロールする力が身につきます。これもまた、普段の生活に生きてきます。そういう子は、ちょっと疲れた５時間目の算数の授業中でも、途中で投げ出したりしないで最後までがんばることができるのです。

学力を伸ばすためには、勉強だけではだめです。土台になる人間性、人間力がなければだめです。その部分を鍛えるには、毎日の生活の中で責任もって果たすべき仕事を持たせること、これが一番です。

（下線・小川記入）

親野智可等（おやのちから）さんの著書『「親力（おやりょく）」で決まる！子どもを伸ばすために親にできること』より抜粋（ばっすい）しました。なるほどなあと、うなずくことばかりです。

仕事（学校では〇〇や〇〇）をするなかで、**生活の土台となる人間性、人間力を高めてほしい**と願っています。自分のすることに**「責任を持つ」**ということが、カギになりそうです。

「労働は人間の最善の友。それは人間に新しい力を与える。」ﾍﾟｰﾀｰ･ﾌｫﾝ･ﾎﾞｰﾚﾝ

７月の主な学校行事予定等

３（月）社会を明るくする運動（生徒会）
５（水）１年生・陶芸教室
５（水）～７（金）２年生・職場体験
１０（月）読書集会
１２（水）部活動壮行会

１３（木）～１９（水）三者懇談会
２０（木）１学期終業式・大掃除
２１（金）２２（土）夏季ブロック大会
２５（火）県吹奏楽コンクール地区大会
２８（金）２９（土）夏季総合体育大会